

―農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する最新手法 GAP―

2013 年 GAP 普及大賞

宮崎大学農学部 GAP 普及に向けた教育プログラムの開発
の取り組みが受賞しました

日本 GAP 協会（理事長：木内博一）は、6 月 29 日に GAP 普及大賞の選考会を開催し、宮崎大学農学部の取り組みを含む 3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

■受賞事例（教育機関による GAP 普及）
GAP 普及に向けた教育プログラムの開発
＜受賞者＞宮崎大学農学部

教育機関による GAP 普及に向けた教育プログラムの開発および GAP 指導者の育成を行っており、産学連携の効果も期待できる事例です。

宮崎大学は、2011 年より「国際的適正農業規範対応の食料管理専門職業人の養成」事業を実施しており、GAP に対応した人材育成のため、当初から国際的な視点を入れ、これまでそれぞれの専門分野で行われていた教育を、GAP を軸の一つの体系的な実践型教育プログラムとして開発したことが高く評価されました。

宮崎大学は、正式なカリキュラムとして GAP に関する教育と GAP 指導者育成を実施しています。同大付属農場は 2011 年に JGAP 認証を取得し、学生の実習を通した GAP の実践学習の場が整っています。学生は授業の中で GAP 指導者として必要な内容も学習しており、2012 年には 37 名の学生が JGAP 指導員の資格も取得しました。また、これまでに同大周辺の一般の農業関係者を対象とした GAP 現地研修なども行い地域社会に貢献していることも高く評価されました。

GAP 普及大賞は、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。

2013 年 GAP 普及大賞の選考委員は次の通り。

中嶋康博（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

岩元明久（日本農業普及学会 常任理事）

梅本雅（農研機構 中央農研センター 企画管理部長）

NEWS RELEASE

宮崎大学の取り組みに加え、下記の2事例が同時に受賞しました。いずれも優劣付けがたいGAP普及の優良事例です。

■受賞事例（農業生産者による GAP 普及）

GAP 実践の深化と新規就農支援

<受賞者>農業生産法人かさい農産

■受賞事例（生産者連携による GAP 普及）

産地形成における GAP 利用のさきがけ

<受賞者>JA 東予園芸とゼスプリゴールド部会

以上、3 受賞事例につきまして、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場ください。

■シンポジウム「GAP Japan 2013」

日時：2013年7月26日 13時から17時

場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生1-1-1）

関連ホームページ：http://jgap.jp/LB_06/index.html

問合せ先：佐久間 TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: info@jgap.jp

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

御社名 _____ 部署名 _____ 御名前 _____

住所 _____ 電話番号 _____